

平成23年度 第2回企画運営委員会(H24年3月)【事後評価】

	研究課題名	評価項目	点数	コメント
1	高齢者の自立生活を支援する居住環境・地区のあり方に関する研究 - 高齢者の近隣居住支援に必要な計画の構築と提案 -	目的達成度	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な課題であるので、分析内容を生かした推奨指針をより具体化することが期待される。</li> <li>・これまでノウハウとして扱われていた部分を文書化することで明らかになったことと、文書化されたものからだけではわかりづらい部分があるということを認識して活用することで、情報を有効に活用できる。</li> <li>・要因や関連性の分析についての考案から、具体的指針が明確に示されていれば、その有効性についても理解しやすかったと考える。</li> </ul>
		必要性	4.4	
		有効性	4.2	
		効率性	4.4	
		計	16.8	
2	障害者、高齢者のコミュニケーション支援に関する研究 - 知的障害者の日常生活支援ハンドブックの開発 -	目的達成度	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドブック作成まで行えたのは評価できる。</li> <li>・日常生活場面に着目し、イラストも入れた活用しやすい工夫が行われおり、当事者との意見交換も行っている。</li> <li>・今後普及の工夫が必要。高齢者(介護現場)でも活用できるものもある。</li> <li>・現場ではノウハウのレベルも大きな差があるのが普通である。ハンドブックを使用する対象をどのように想定するか明確にしていく必要がある。</li> </ul>
		必要性	4.2	
		有効性	4.4	
		効率性	4.2	
		計	17	
3	県営住宅の住戸プランにおけるバリアフリー配慮の工夫に関する研究	目的達成度	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が在宅で住み続けられる住戸の整備が不可欠。その課題で役立つものであり、成果の即効性も高い。</li> <li>・ハードウェアだけでなく、入居者への支援情報の提供なども含めたバリアフリー化が必要となることを理解して活動してほしい。</li> <li>・今後整備される県営住宅だけでなく、介護保険で改修される住戸にも生かされることが期待される。</li> <li>・県営住宅の改修だけにとどまらないようにすべきと考える。</li> </ul>
		必要性	4.6	
		有効性	4.6	
		効率性	4.2	
		計	17.4	
4	筋力トレーニングの定量的評価手法の開発	目的達成度	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士が患者を担当する時間単位が20分程度であることから、この時間内に全ての計測から評価までを終えることができるようなシステム開発が必要で、このレベルまで到達できることを最終目標として欲しい。</li> </ul>
		必要性	4.3	
		有効性	4.3	
		効率性	4.5	
		計	17.4	
5	高齢者・障害者の個別ニーズに対応した福祉用具等の開発	目的達成度	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別対応の開発であるが、生活の幅が大きく向上すると考える。</li> <li>・高齢者・障害者のニーズが生まれてくることは、リハビリテーションという観点からは望ましいことであり、それに対応してくれるところがあるという意味で、兵庫県は障害者等を大切にしていると言える。これからも、個別のニーズに対応することの重要性を広報することで、障害を持つ当事者だけでなく、セラピストなどにもアピールしてほしい。</li> </ul>
		必要性	4.6	
		有効性	4.6	
		効率性	4.6	
		計	18.2	
6	高齢者・障害者のメタボリックシンドローム対策の研究	目的達成度	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい視点であるが、一般に車いす利用者の関心が低い可能性があり、意識づけが課題。</li> <li>・アメリカで義足使用者のフィットネスが話題になったのは6~7年前であった。障害者等のメタボリックシンドロームが議論されるようになるのは時間の問題であり、いち早く研究テーマに取り上げたことは評価できる。広く医師などにも参加を呼びかけてほしい。</li> </ul>
		必要性	4.4	
		有効性	4.2	
		効率性	4.6	
		計	17	
7	上肢運動機能リハビリテーションにおける訓練・評価手法の開発	目的達成度	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の訓練を阻害せずにできることが成果として高く評価できる。</li> <li>・対象者の範囲を明確に示していくことが必要。</li> <li>・研究の成果を作業療法士等が活用したくなるような形で提供することが重要である。中央病院だけでなく、広く全国の病院などに導入してもらえるようにすすめてほしい。</li> </ul>
		必要性	4.2	
		有効性	4	
		効率性	4.2	
		計	16.2	

点数：各評価項目を5点満点で採点(各委員の平均点数)。